

クローズアップ!! 天王寺

的中をもたらし 和の心と修練



人との和が大切な個人競技
初詣で授かる縁起物の破魔矢や弓矢にまつわる神事に見られるように、弓矢は古くから神聖なものとされてきました。弓を引き矢を射る武術「弓術」も長い歴史を経て、弓道文化として根づいています。そんな和の心が息づく世界にふれようと、大阪夕陽丘学園高等学校の弓道部を訪れました。



▲弓道部顧問 大橋善行教諭

「尊ぶ気持ちを大切にする世界です」
そう話すのは、顧問の大橋善行教諭。弓道部を立ち上げ、平成3年の創部以来、部員たちを見守ってきました。

「弓道は武道の中で唯一相手が



▲主将の高橋菜見子さん

人間ではない個人競技ですが、仲間の協力が不可欠です。多くの作法やマナーがある中で、最も大切なのは競技者の邪魔をしないこと。集中力を乱すので、競技中に声をかけるのはマナー違反です。射終わつて的中すれば、学生弓道では、仲間が「よし!」と声をかけてくれて励みになる。チームワークが大切なんです」

将来に生きる「正射必中」の心

的に矢が当たることを「中」といいます。的のどこに中つても「中」で、基本的に勝敗は「中り」「外れ」の本数で決まります。

「弓道には「正射必中」という言葉があります。正しい射形で弓を引けば、必ず中るという意味です。過程を正確に身につければ、結果はついてくるんですね。よく生徒に話すことです。就職試験の面接で「100本引いて、100本中ります」とアピールしても、弓道の経験が会社に役立つことはない。ただ、そこに至るまでに相当な努力と修練を重ねたことが評価に値するんです。勝敗同様、過程が大事なんですね」

達成感もたらす仲間の拍手

弓道部の部員は現在、女子17名、男子1名の計18名。主将を務めるのが、2年生の高橋菜見子さんです。「試合では1回に4本の矢を射ます。すべて中ることを「皆中」といい、

皆中が出たら敵も味方もそれを称えて拍手するのが礼儀です。大きな拍手をもらうと、達成感と満足感で胸がいっぱいになり、仲間のいる喜びも感じます。礼儀の大切さも学べました」

弓道部は地域に根差した活動として、例年1月13日に行われる生國魂神社の「御弓神事」にここ数年参加しています。

「昨年は私が演武をしました。部活動の枠を超えて修練の成果を披露したいと思っていたので、うれしかったです」

部活動で日本文化を満喫中

2年生のイレネさんは、昨年10月に入学したスペイン人留学生です。「日本文化が好きで、1年間の予定で昨夏来日しました。弓道は簡単



▲2年生の留学生 イレネさん

に思いましたが、弓を引くのも礼儀作法も難しく、毎日練習があるのも大変です。でも、とても興味深く、楽しいですね。日本でしかできないことをどんどん体験したいと、茶道部も掛けもちしています」

日本語もペラペラのイレネさん。将来は、国際関係の勉強をしたいと話してくれました。



▲大阪夕陽丘学園高等学校弓道部の練習風景



▲3年生の奥田菜月さん

気持ちに負けないよう日々練習

昨年の大阪高等学校弓道春季大会の個人戦で5位入賞を果たしたのが、3年生の奥田菜月さん。後輩の目標になっています。

「団体戦の場合は、私の1本で勝敗が決まる場面もあり、とてもプレッシャーがかかります。でもそれに負けないよう、本番に臨む気持ちで練習しています。楽しいのは、仲間と弓を引くことです。毎日練習するうちに次第に息が合ってくるんです」

目標は、卒業までに2段取得です。「さらに上を目指して大学、社会人と今後も続けたいです。私の影響で父も弓道を始めたので、一緒に引きたいなあと思っています」

弓道場に響く澁刺(しづさ)とした挨拶やかけ声、きびきびとした優雅な動きに、見る側も喝を入れます。ともすればおざなりにしがちな礼儀作法や挨拶、人との和、相手を尊ぶ気持ち。その大切さを年の始めに、思い起こしてみませんか。

「クローズアップ!!天王寺」では、これからも日本一の文芸都市にふさわしい区内の魅力ある学校活動を取り上げていきます。



▲弓道部のみなさん。全員が初心者からのスタート。

目次

●クローズアップ天王寺

大阪夕陽丘学園高等学校弓道部……………2

●お知らせ……………3

●保健衛生……………4

●子育て情報……………5

●イベント情報……………6

●わがまち天王寺……………8

●おおさか掲示板……………9

●新年のご挨拶／成人の日記念のつどい／

子育て情報アプリ「ぎゅっと!」……………12